

芸術表現を通した「芸術の昇華機能」の 探究や新たな可能性の模索、及び 「パブリックアート」研究

造形短期大学部
造形芸術学科
教授

黄 禧晶



研究シーズの紹介

本研究の根源を成す人間のあらゆる元型を探るには「開かれた目・開かれた心」で物事を理解して行くことが前提であると考えている。現代人における「心の闇」は様々な社会問題につながっている。そこで本研究者は芸術の健全な防衛機制の「昇華」機能に注目し、その可能性を広めるべく研究を続けている。

もう一つ、パブリックアートに注目する。本研究者は学内外

で様々なところで壁画やトリックアートなどの制作を行ってきた中で、芸術表現が齎す感動というのは一方的なものではなく、双方向的に分ち合うものであることを実感してきた。創る側も見る側も芸術の昇華機能によって救われている。よって得られた実践力を持ってより多くのアートをより多くの人々に多様な形で体験できるように研究を続ける。



アートを通したアートセラピー パブリックアート

- 芸術表現を通しての心の闇の治癒が可能です。
- 公共の場で芸術作品を設置することで地域活性化が図れ、パブリックアートの実効性が立証出来ます。



全国高速道路美化事業 草切橋



福岡県須恵町役場



個展作品



福岡県須恵町久我階段橋

期待される活用シーン

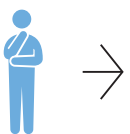
- パブリックアートにおいては対象地域の特性、歴史に関連つてのテーマや内容が求められる。



町おこしの企画イベントなどと絡み合わせて制作、講評することでより幅広い宣伝効果が得られ、尚継続したプロジェクトの実行が実現できている。



- ユーザーの要望に沿ったデザイン案であることが非常に重要であり、特に八女紙工の外観の美化や、事業内容がはつきり伝わるようなデザインを提案すること



どのような仕事をしているかをアートという媒体を通して外部に発信できることや職員のテンションを上げること

